

動物用医薬品副作用症例報告 (平成17年11月分)

薬事法第77条4の2に基づく動物用医薬品副作用症例報告を次のとおり掲載する。

医薬品の名称 (製造(輸入)業者名)	副作用発現動物				副作用等発現の概要及び転帰						
	種類	性	年齢等	投与前の健康状態・疾患等	投与量・投与方法	投与年月日	併用薬	副作用発現年月日(投与後時間)	副作用等の種類	講じた処置	転帰
ズプリン100, ズプリン200 ナガセ医薬品(株) 製造番号: 025234, 025235	犬 ゴールデン・レトリバー	雄	15歳	股関節疾患(起立困難)	300mg(8.8mg/kg) 1日1回	平成17年10月31日 ～ 11月18日	カルプロフェン, コンドロフレックス525	平成17年11月16日	下痢, 出血性下痢 起立困難で来院。股関節疾患と診断 10月30日カルプロフェン4.1mg/kg SC. 10月31日よりズプリン(300mg/日PO)開始。 11月12日まだ疼痛があり,コンドロフレックス525を併用(1錠/日)～(11月18日)。 11月16日より水様性下痢(飼い主申告)。ズプリンは継続投与(～11月18日)。 11月19日飼い主のみ来院,止瀉薬(下痢止め,ロベミン)処方(1回1カプセル,1日2回)。 11月20日下血,起立困難(虚脱状態,血圧下降気味)で来院(午前8時),輸液療法,止血剤(アドナ,バソラミン)投与にて帰宅させるも,飼い主宅にて死亡(午後6時30分)	治療 止瀉薬(ロベミン), 輸液療法, 止血剤(アドナ,バソラミン)	死亡
<p>《企業の意見及び対応》</p> <ul style="list-style-type: none"> 担当獣医師：当該医薬品との関連性は高い。 企業：本件はズプリンを19日間連続投与した症例にみられた事例であり,併用したサプリメント(コンドロフレックス525)によるものとは考え難いこと,非ステロイド系消炎鎮痛剤に比較的好く発生する下痢の副作用が認められていることから,当該医薬品との関連性が高いと考えられる。ただし,本件は15歳の高齢犬であること,19日間連続で投与していること,水様性下痢が認められてからさらに3日間投与していることから,以下の使用上の注意を厳守し,早期に適切な治療を開始することが望ましい措置であった可能性も考えられた。 <ol style="list-style-type: none"> 制限事項 <ol style="list-style-type: none"> 高齢の犬では,副作用の発現する可能性が高まるので,投与する必要がある場合には,慎重に投与すること。 本剤を反復投与する場合には7日間を限度とすること。 副作用 <ol style="list-style-type: none"> 本剤の投与により嘔吐,下痢が見られることがある。非ステロイド系消炎鎮痛剤による典型的な副作用としては,嘔吐,軟便/下痢,血便,食欲不振,倦怠などがある。このような症状が現れた場合には,ただちに投与を中止すること。 対応：今回の症例は飼い主が家で投与した時に発生したものであり,下痢が認められてから投薬をさらに3日間継続している。国内臨床試験においても本剤の副作用として嘔吐・下痢が報告(54例中嘔吐1例,下痢1例)されているが,このような症状が認められた場合はただちに投薬を中止し,早期に適切な処置を考慮すべきであることは,本剤に限らず非ステロイド系消炎鎮痛剤を使用する獣医師に注意を喚起していきたいと考える。 											

家畜衛生週報 (No. 2918) より